研究デザイン

亀山市立白川小学校

亀山市教育大綱 基本方針 「 未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現 」

亀山市教育関係職員 研修基本方針
「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために」
(1)すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
(2)教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
(3)人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
(4)地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

○亀山中学校区研究主題 「自他を認め、ともに学び合い、高め合う児童・生徒の育成」

1.学校教育目標

「であい、ふれあい、そして未来へ」
～自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成～

白川小学校校舎

○めざす学校像 「一人ひとりの子どもが輝く学校」
・みんなの中で一人ひとりの子どもが、認められ、楽しく生き生きと安心して力を発揮することができ、達成感・充実感が味わえる学校

○めざす子ども像
・思いやりのある子
・自分を発揮できる子
・自分の思いを追い求める子
・対話をとおして人とつながる子
・新しい時代に対応していける子

5・6 年体験活動「炭作り」

2.研究主題

自ら学び、ともに伸びようとする子どもの育成
～「白川っ子スタイル」で学び合う算数科授業を通して～

3.研究主題設定の理由

(1)児童の実態

本校は、児童数が40人で、そのうち小規模特認校制度を利用している児童は9人である。特認校制度により校区外からの児童が増えることで、交友関係が広がり、学び合いの活性化につながっている。全体として児童の数は昨年

度とほぼ同じであるが、3・4年と5・6年は複式学級となっている。

一年間を通じて、地域と密着した体験活動を行っており、米づくりや炭焼きなどの体験や生活介護事業所「つくしの家との交流などの社会福祉体験に取り組んでいる。本校は、地域と学校とのつながりが強く、保護者や地域の方とともに子どもを育てていこうとする風土がいる。6年前からコミュニティ・スクールとなり、より一層地域とのつながりを強め、「地域とともにある学校づくり」を進めている。

小規模校であることを活かし、縦割りでの班活動を多く設定することで、全校児童が深く関わり合いながら学校生活を過ごしている。あたたかい雰囲気があり、上級生が下級生に優しくサポートできている。下級生はそうした経験をもとに、上級生になった時に下級生に自然と優しくできている。しかし、穏やかな関係を築く反面、お互いに切磋琢磨し、意欲の向上を図ったり、目標を目指したりしていく雰囲気は少ない。

体験活動「全校田植え」

運動会「表現運動」

体験活動「餅つき集会」

(2) これまでの成果・課題

統一した授業展開で行う授業による学びと、白川小学校の特色である様々な体験活動での学びを二つの軸にすえ、相互の学びを関連させながら、体験活動の中で培われてきた自主性や発想力、豊かな想像力など児童の内面の力をさらに引き出し、学びの質の向上を目指して研究を行ってきた。

昨年度までの研究の取り組みでは、各学年に応じた学び方を設定し、教職員全員が共通理解をもって、自力解決の時間である「一人学び」と、ともに学び合う時間の「とも学び」の充実に向けた授業改善に取り組んできた。また、単学級、複式学級に関わらず、「学習リーダー」の実践に注力し、研究を進めてきた。研究を通して、「各学年に応じた学び方を明らかにし、教職員全員が共通理解をもって日々の授業づくりに生かすことができた。」「単学級か複式学級かに関わらず、どの児童も授業の見通しをもち、児童を中心に学習を進めることができる力を育むための手立てについて、見識を深めることができた。」といった成果が得られた。

一方で、「学習意欲の差が大きく、課題に粘り強く取り組むことが苦手な児童が多いこと」や「共通の課題に対して、友だちと意見を交わしながら考えを広げたり、深めたり、まとめたりする力が弱い」という課題が見られた。

4. 研究主題について

前述した子どもの姿や課題から、本年度は、サブテーマを「“白川っ子スタイル”で学び合う算数科授業を通して」と設定し、特に算数科における複式学級での学習を見据えた児童主体の授業スタイルの確立を目指す研究に取り組みたい。これまでの研究で設定してきた「児童の目指す姿」を達成するために、間接指導の充実を図るための手立てを検討するとともに、児童が主体的に学習に取り組むことができるような学習指導方法について研究を進めたい。

さらに、白川小学校ならではの体験活動を、様々な教育活動と関連づけることで、児童の思考力・判断力・表現力の伸長を図るとともに、児童の向上心、学習意欲を高めるようなしかけを意図的に行うことで、児童に学ぶ楽しさを感じさせたい。

5. 研究領域

算数科

6.研究構想図

学校教育目標

であい ふれあい そして未来へ
～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

研究主題

自ら学び、ともに伸びようとする子どもの育成
～「白川っ子スタイル」で学び合う算数科授業を通して～

めざす子どもの姿

「自ら学ぶ子ども」

- 各学年に応じた学び方を身につけ、課題の自分化を図りながら、粘り強く課題解決しようとする子
- 自分のよさに気付き、生き生きと高めようとする子
- 学んだことを今後の学習や生活に生かそうとする子

「ともに伸びようとする子」

- 自分の考えを伝え調べたことや考えたことを発表する子
- 考え方や意見の違う友だちと議論し再考する中で、考えを深める子
- 互いのよさや違いを認め合い、新たな考えを発見する面白さや楽しさを感じられる子

“白川っ子スタイル”で学びあう児童主体の授業づくり

統一した学習展開の工夫

① 学習課題を共有する場面
② 課題解決に向けた見通しをもつ場面
③ 課題を追求する場面
④ 学びの過程をふりかえる場面

「めあて」と「かだい」・・・ 問いをつかむ 見通しをもつ
「一人学び」… 課題をつかむ 考えを持つ 再考する
「とも学び」… 伝え合う 比べる 広げ深める
「まとめ」と「ふりかえり」・・・ 学びを自覚する

学びの過程の視覚化

構造的な板書、ホワイトボードや ICT 機器の活用

「一人ひとりが考えを持つための手立て」や「話し合い活動の充実」を図る取り組み

・既習事項や生活と結びつきの意識づけ ・音読の充実化 ・絵や図表の活用 ・具体物を操作する活動
・読み取る指導の充実 ・国語辞典の活用 ・話し合いを生むしかけづくり ・発言の仕方の掲示
・振り返りによる学びの自覚化 など

複式学級ならではの算数科の学習展開の工夫

「わたり」と「ずらし」、両学年同時展開
学習リーダー（教師が別学年の指導を行う場面において、学習進行を行う児童）の育成
学習ガイド（教師が時系列に順番に学習活動を書いたもの）の活用

認め合いつながりあうなかまづくり

- 児童のきめ細かな実態把握
- 人権教育の日常化
- 安心できる学習集団づくり
- 素や感性を磨く「すみがく」
- 意図をもった異学年交流

地域と進める豊かな体験活動

- 地域とともにある学校づくり
- 様々な外部機関との連携

学びの基礎・基本

- 学習規律の徹底
- 「話す」「聴く」スキルや語彙力などを高める取り組み
- 自主学習、家庭学習の習慣化

7. 具体的な取り組み

(1)「主体的・対話的で深い学び」を目指した「白川っ子スタイル」で学び合う授業づくり

〇研究主題及び目指す子どもの姿の達成に向けて、統一した授業展開に沿って「一人ひとりが考えを持つための手立て」や「話し合い活動の充実」を図る取り組みを校内全体で意識して行っていく。本年度は、新たに、間接指導の充実化に向けた「学習の手引き」の作成や、「学習リーダー」や「学習ガイド」の活用、実態や課題に合わせた学習形態の工夫等について研究を進めていく。また、「目指す子どもの姿」と実態を毎月照らし合わせて、実践の妥当性や今後の取り組みについて検証していく。

(2) 認め合い つながりあう なかまづくり

〇小規模校の利点を生かしたきめ細やかな児童の実態把握

・職員会議や校内支援委員会などで「気になる子」の様子を交流し合い、全教職員で情報を共有する。

・QU アンケート、人権アンケートなどを活用し、児童の実態把握に努める。

〇人権教育の推進及びすみがくタイムの設定

・人権カリキュラムに沿った、系統的な人権教育を行うとともに、全校で人権にかかわる学習として「すみがく」を行う。

・人権、なかまづくりを意識した授業を計画的・継続的に行う。

〇なかまづくりレポートの作成及び交流

・各学級の「気になる子」を中心に、まわりの子との関わりや関係を捉え、誰もが安心して過ごせる学級づくりに向けた取り組みを交流し合う。(年間3回)

1・2 年体験活動「いもさし」

(3) 地域と進める 豊かな体験活動

〇地域、保護者、つくしの家等とのつながりを大切にした体験活動を継続する。また、体験活動を振り返ったり、他の学習と関連付けて学びを深めたりすることができるようにする。

<主な体験活動>

地区探検、さつまいもづくり、お年寄り訪問、花壇づくり、炭づくり、
つくしの家福祉体験、米作り体験、白川ふれあい集会、もちつき集会

児童集会「白川っ子タイム」

(4) 基礎・基本の定着

〇語彙力、表現力の向上を図る取り組み

・国語辞典や「ことばの宝箱」などを活用した学習を進め、語彙力、表現力の向上を図る。

・各教科ならではの「学習用語」を用いた言語活動の充実を図る。

・始業式、終業式、白川っ子タイム(児童集会)等で各学期の目標やがんばったことなどを話す「スピーチタイム」を設ける。

〇短時間学習の充実

・朝の学習を曜日ごとに設定し、基礎・基本の定着を図る時間として確保する。

〇自主学習の充実

・「自主学習の手引き」を配布し、自己学習能力の向上を図る取り組みを継続的に進める。また、自主学習ノートを掲示物や通信等で児童や保護者に紹介し、内容や意欲の向上を図る。

〇ワンダーコーナー(教師によるおすすめの本の紹介)

・児童の好奇心や意欲を引き出し、発展的な内容に触れられるコーナーを設ける。

「ワンダーコーナー」

(5) 校内研修会の充実

〇「かめやま授業デザインスタンダード」を活用した授業や校内で設定した「めざす児童の姿」にせまる手だての検証を継続的に行う。

〇積極的に研修会に参加し、還流報告により校内研修のさらなる充実を図る。

〇OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)を随時行う。